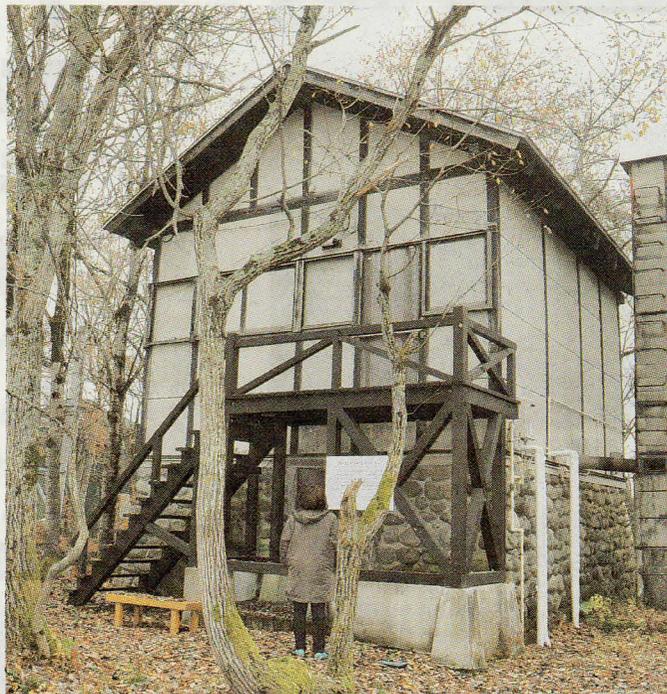


吉田茂首相の側近として戦後復興に尽力した東北電力初代会長の白洲次郎氏(1902~85年)が、蔵王温泉スキー場(山形市)に建てたスキーロッジ「ヒュッテ・ヤレン」を再整備しようと、東京のNPO法人が活動を始めた。12月に蔵王で観光フォーラム

を開催して広く協力を呼び掛け、募金活動も展開する。

山形・蔵王温泉

白洲次郎の山荘再整備



白洲次郎氏が建てたスキーロッジ
＝山形市の蔵王温泉スキー場

山形県内でまちおこし活動をを行う東京のNPO法人「三気・まちネット」が、現在「三宅山荘」の名でロッジを所有する民間スポーツクラブ「大泉間スローテッククラブ」(東京都)と協力し、整備計

山形県内でまちおこし活動をを行う東京のNPO法人「三気・まちネット」が、現在「三宅山荘」の名でロッジを所有する民間スポーツクラブ「大泉間スローテッククラブ」(東京都)と協力し、整備計

ロッジは上の台ゲレンデ近くにあり、木造2階、床面積約70平方メートル、

蔵王温泉観光協会などによると、スキー好きな白洲氏は1951年に東北電力初代会長に就任後、「蔵王を東洋のサン

建物として歴史的、文化的な価値が高い」と強調する。

東京のNPO「観光拠点に」



モリッツ(スイス)にしよう」と地元でスキー場開発を熱心に働きかけたという。

同年にはロッジを建設。三重窓やオーブンキッチンなど高い機能性を備え、多くの電化設備も施し「ヒュッテ・ヤレン」と命名した。矢口代表によると、「(スキーを)ヒューと、やれん」との意味を込めてドイツ語風の名前にしたという説が有力という。

来月10日フォーラム 募金も開

ロッジは2010年ほど使われておらず、老朽化が心配されている。活動には県内の財界人をつくる「白洲次郎を語る山形の会」や蔵王温泉観光協会も協力し、白洲氏が山形に残した足跡を守る。募金の集め方などは今後、具体的に検討する。

矢口代表は「内部を資料館として公開したり、新たな観光資源として保存活用したりするため、多くの方々の協力を求めたい」と訴える。

観光フォーラムは12月10日午後1時半から蔵王体育館で開かれる。専門家の診断による建物の現状を報告し、蔵王の観光振興をテーマに参加者と意見交換する。参加費1000円。ファクスカメールで参加申し込みが必要。締め切りは今年25日。ファクス番号は03(3826)46091、メールアドレスはyaguch.i.m@so-kk.jp